

絵本・手遊び

活用マニュアル



教材作成者

子育てアドバイザー かがりいさ

Copyright(c) 2019 幼児期子育ての教科書 All Rights Reserved

1 / 18

【推奨環境】

このレポート上に書かれているURLはクリックできます。できない場合は最新のAdobeReader をダウンロードしてください。(無料)

<http://get.adobe.com/jp/reader/>

【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は株式会社Adventure Lifeに属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

目次

1. 手遊びや絵本の効果

1. 絵本

2. 手遊び

2. 効果的な取り入れ方

3. 絵本の読み方の5つのポイント

4. 手遊びを行うときの4つのポイント

1. 手遊びや絵本の効果

手遊びや絵本というのは、子どもの
いろいろな機能に働きかけます。

<<絵本>>

絵本というのは、親子が近くで同じ時間を共有するので、
親子のコミュニケーションが取れたり、
また、いろいろな色の絵を見ることで、
感性が豊かになったり、お話の世界に入り込んで
物語を楽しみながら、この絵本はどのように
進んでいくのだろう？この動物・人物はどのように
なっていくのだろう？といった、**物語や場面を**
イメージしたりすることで、想像力を培っていくようになります。

また、いろいろな絵本を読んでいろいろな世界のことを

経験した子どもというのは、アイデアも豊かです。

あとは、言葉の表現を知ることによって語彙力が育ったり

言葉に興味を持ったりなど・・・

このように絵本にはたくさんの効果があります。



<<手遊び>>

手遊びは、大人と子どもが触れ合ったり時間を共有して

一緒に楽しむことができるので、スキンシップや

親子のコミュニケーションやを深められ、

子どもの情緒を安定させることができます。

また、手遊びの歌や数、出てくる動物などに合わせて、手先を動かしたりするので、手先の器用さにも繋がります。

また、手指を動かすことで脳の活性化にも繋がって、

想像力も育ち、発達を促してくれます。

あとは、手遊びは簡単で覚えやすい歌が多く、食べ物や動物などの名前を覚えたりすることができ、物の認識や記憶力をも培うことができるので、知育にも効果な遊びです。

このように、手遊びや絵本というのは、ただ子どもが楽しんでくれる“遊び”だけでなく、**“発達を促す手段”**
としてもとても効果的なものなのです。

2. 効果的な取り入れ方

絵本や手遊びというのは、集中させたい場面の前に

取り入れることで、子どもの気持ちも落ち着いて

興奮が収まって集中力も高めることができます。

また手遊びの種類などによっては、子どもを

落ち着かせる効果があるものもありますので、

そのような手遊びを取り入れるものもおすすめですし、

また逆に盛り上げたいときには、盛り上げる効果のある

手遊びを選ぶのもおすすめです。



あとは、何かに夢中になっているときに

他のことに振り向かせたいときに使うのもおすすめですよ！

また、特に子どもは次の行動への切り替えが苦手です。

次の行動に切り替えさせたいタイミングで

手遊びを取り入れることで、

機嫌を損ねずにスムーズに次の行動に

移ることができるようになります。

導入の1つとして取り入れていくのもおすすめですよ！

3. 絵本の読み方の5つのポイント

●ゆっくり聞きやすい速さで

大人が読むと、無意識に速くなってしまう場合があります。

速すぎてしまうと、子どもは話を理解できず、

物語に集中できなくなってしまう。

“ゆっくり読み進める”ということを

意識しながら読んでいくようにしましょう。

● **過剰な抑揚をつけない**

絵本は、大人が読んで、それを子どもたちは耳で聞いて、

絵を目で見て、いろいろなことを想像したり

考えたりしながら絵本の世界を楽しみます。



声に抑揚はつけない方が良いという方と

抑揚をつけたほうが良いという方がいますが、
私が幼稚園教諭時代に絵本の読み方の講習を
受けたときに、プロの方も抑揚をつけられていました。

また、私が抑揚ありと抑揚なしで子どもの前で
絵本を読んでもみましたが、子どもの集中力も違いました。

声に抑揚があるだけで、子どもを引き付ける力も強くなりますし、

子どもも、よりその世界に入り込んで

物語を楽しむことができますので、声に抑揚を

つけながら読むことは個人的におすすめです！

ただ、過剰に抑揚をつけすぎてしまうことはよくありません。

子ども自身の想像力を妨げてしまったり、読み手のイメージを
押しつけてしまうことにもなりかねないからです。

●途中で話を止めたりしない

絵本のお話を読んでいる最中に、大人が絵本のことについて話したり、質問したりするのはNG。

子どもの集中力やイメージ力を妨げてしまいます。

子どもからの質問があっても、細かく答えるのではなくさらっと答えて、絵本が終わってから詳しく教えてあげるようにしましょう。



なるべく絵本の中のお話が遮断されないように

気をつけましょう。

●裏表紙まで見せる

絵本を読み終わった後、文字・絵がなくなったところで

終わりだと思っている方も多いと思いますが、

絵本というのは、**裏表紙まで物語が続いている場合が**

多いので、必ず裏表紙まで見せてあげてから

絵本を終えるようにしましょう。

●感想を聞かない

絵本を終わった後に、

「〇〇すごかったね!」「〇〇どう思った?」などと、

感想を聞いたり話してしまう大人たちも結構多いです。

実はこれは NG。

絵本の読み聞かせが終わった後も、

子どもたちの心の中には、絵本の中の世界が広がっています。

話しかけたり感想を聞いたりしてしまうと、

その世界が遮断されてしまいます。

絵本の中の世界を十分に楽しみ、余韻に浸れるように、

子どもたちから話が出てくるまで話さないように

することがベストです。



子どもたちから話が出たら、子どもと一緒に

絵本の世界に入り込んで楽しんであげましょう。

4. 手遊びを行うときの4つのポイント

●子どもの発達に合わせて選ぶ

手先がまだ器用ではない頃から、手先をたくさん使う

手遊びは、子どももできません。

自分ができないものだと、子どもは興味をなくしてしまいますし

集中力も下がってしまいます。

特に子どもがまだ0歳とかの小さい頃でしたら、

無理に手を使った手遊びではなく、

体を使ってお母さんと一緒に触れ合って遊ぶ

“ふれあい遊び”などもとってもおすすめです。

そして年齢が上がり、遊びのルールなどもわかるようになれば、

じゃんけんなどを使った手遊びなどもおすすめですよ！

子供の発達に合わせたものを選ぶだけで、子どもが集中して

楽しめるだけでなく、子どもの発達をより促すことが

できるようになりますよ！



● **明るく優しい口調で抑揚をつけるとより集中する**

子どもが集中してくれなかったり、
一緒にやってくれなかったりすると、
どうしても気を引かせたいという気持ちから
強い口調になってしまったり、
イライラしてしまう大人たちもいます。

でも手遊びは、**完璧にやらせることや、
集中してやらせることが一番の目的ではありません。**

何より、子どもが楽しんで行うことが一番です。

明るく優しい声で抑揚をつけたり、またスピードにも変化をつけながら歌ったりして進めていくと、子どももより集中してくれます。

絵本と一緒に、声に変化をつけてあげることで

自然と子どもを引き付けることができ、

お母さんたちもイライラせずに子どもと楽しめるようになりますよ！

●明るく楽しい表情で

子どもというのは、大人の表情をよく見ています。

手遊びをしているときも、手だけでなく

表情までしっかりと見ています。



やはり、大人が明るく優しい表情をしていると

子どもも安心しますし、子どももより楽しい気持ちになるので、

手遊びの時間がより一層楽しい時間になります。

もし、手遊びの歌詞の中で、表情が変わる場面が

あったりするのであれば、その曲に合わせて

大人も表情を変えたりしていくと、

子どもはより楽しんでくれますよ！

明るく楽しい表情で行うということは、親子共に

楽しい時間を共有する上でもとても大切ですよ！

●左右反対にして行う

基本的に、左右順番に行う手遊びであれば、右から始めます。

子どもに右手で行ってほしいときは、
見本を見せる人は、逆側の手で行います。

鏡に映っている自分が子どもから見える自分なので、
もし時間があるのであれば、鏡を使って練習するのもいいですね。

子どもから見てどのように見えるかということ、
常に考えて行うことが大切です。

最初のうちは子どもと同じ方の手で
やっしまいそうになりますが、慣れれば自然と
反対の手でできるようになってきますよ！